

# 2-1 学校教育

主な関連  
ゴール



## めざす姿

- 学校教育を通して、児童生徒が楽しく学習し、確かな学力を身に付け、豊かな心と健康な体を育てています。

指標	現状値	目標値（めざす方向） 2032年
学校が楽しいと思う 児童生徒の割合	90.0% (2022年)	90.5%
将来の夢や目標をもっている 児童生徒の割合	77.4% (2022年)	83.0%

## 施策の背景

### 📍 現状

これからの社会は、予測不能な激しい変化がこれまで以上に増える可能性があります。

児童生徒の間において、人間関係が希薄化しています。

健全な食生活に対する意識の低下や外で体を動かす機会の減少が進んでいます。

多くの学校施設において、老朽化が進んでいます。

地域社会での、子どもを取り巻く大人のつながりが希薄化しています。

### ✍️ 課題

➔ 児童生徒が夢や希望を抱いて人生や社会を切り拓いていく力を培うために、よりよく問題を解決する資質や能力の基礎となる、確かな学力の定着が求められています。

➔ 心や語学、学力などに問題を抱える児童生徒一人ひとりに対し、多くの大人が寄り添い、きめ細かな対応をすることが求められています。

➔ 望ましい食習慣を身に付ける必要性や運動する楽しさを実感し、健康な体づくりに対する理解を更に深めることが求められています。

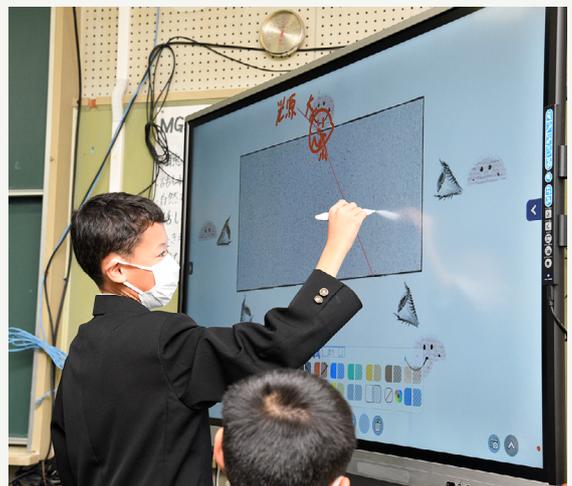
➔ 施設の安全性を確保するとともに、増加する維持管理費に対する経費の削減及び平準化が求められています。

➔ 学校、家庭、地域の連携を更に深め、児童生徒の健全な育成や安心安全の確保に努めることが求められています。

将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合の推移



資料：市民意識調査



## 施策の内容

### 211 教育内容の充実

- ①児童生徒が主体的に学ぶ、分かりやすい授業づくりに努めます。
- ②社会の変化に対応した国際理解、環境、情報、福祉、健康、文化・芸術などの教育を推進します。
- ③社会の変化に対応した専門知識と指導力を持つ教職員を育成します。
- ④地域の人材や専門家、学生などに対する教育現場への協力要請や学習の機会の確保（学習しやすい環境の整備）に努めます。

### 212 児童生徒への きめ細かな対応

- ①いじめや不登校などに対する教育相談体制の充実を図ります。
- ②障害のある児童生徒や外国人児童生徒への支援の充実を図ります。
- ③児童生徒の実態を把握し、道徳教育と特別活動を推進します。

### 213 児童生徒の 健やかな 身体づくり

- ①運動する楽しさを体験する機会を提供し、生涯にわたって運動に親しむ児童生徒を育成します。
- ②食育や給食指導を通して、食の大切さを学ぶとともに、食への関心を高める取組を行います。
- ③児童生徒にとって、魅力的な献立づくりに取り組むとともに、安心して安全な給食を提供します。

### 214 学校施設・設備の 整備・充実

- ①安全性や快適性の向上を図るため、老朽化した校舎や設備の計画的な改修を推進します。
- ②教育環境の改善や災害時における避難所としての機能強化を図るため、施設の改修や設備の整備に努めます。
- ③学校におけるICT環境の整備を推進し、学習活動の充実を図ります。

### 215 安心安全で 地域に開かれた 学校づくり

- ①家庭や地域社会との連携を深め、地域住民と児童生徒がふれあう機会の充実を図ります。
- ②不審者の侵入対策、通学路における交通安全対策、防犯対策を推進します。
- ③地域と連携した避難訓練や防犯訓練を行い、児童生徒の安全確保に努めます。



## 連携・協働の考え方

- 児童生徒に予測不能な変化の激しい社会を生き抜く力を身に付けさせるため、学校教育のめざすところを家庭や地域、事業者と共有・連携しながら、社会全体で児童生徒の「生きる力」を育みます。

▶ 地域学校協働活動 

## 関連する個別計画

- 刈谷市教育大綱（2021年度～2025年度）

## 2-2

生涯学習・  
青少年育成

めざす姿

- 市民一人ひとりが生涯にわたって自ら学習し、充実した心豊かな生活を送っています。
- 青少年が思いやりの心を持って健やかに成長し、社会的な自立を果たせるようになっていきます。

主な関連  
ゴール

指標	現状値	目標値(めざす方向) 2032年
生涯学習を行っている市民の割合	39.5% (2022年)	50.0%
青少年が参加する体験・交流活動参加延べ人数	18,855人 (2021年)	26,000人

## 施策の背景

## 📍 現状

ライフスタイルや価値観の多様化に伴い、学習ニーズが多様化する中で、各種講座の受講者は固定化傾向にあり、生涯学習を行っている市民の割合は伸び悩んでいます。

図書館の入館者数が減少しています。また、若者の読書離れが問題視されています。

生涯学習施設は充足しており、全体としての稼働率の高いものの、一部の部屋の利用率が低くなっています。

スマートフォンやタブレット利用者が低年齢化しています。

社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者が増加しています。



▶ 動画で解説

## ✍️ 課題

➔ 多様化するニーズを的確に捉え、幅広い世代を対象とした学習機会の提供が望まれます。

➔ それぞれの年齢層に合った読書に親しみやすい環境づくりが望まれます。

➔ 施設の利用自体を知らない市民が一定数いるため、各施設の利用促進の向上が必要です。

➔ ネット依存などの新たな課題が生じており、青少年を健全に育成できる環境づくりが求められています。

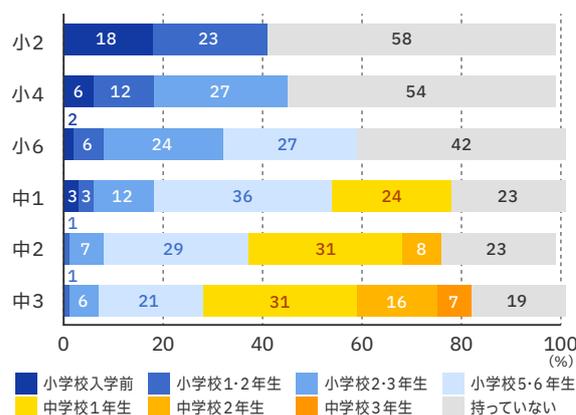
➔ 青少年とその関係者が気軽に相談のできる体制づくりが求められています。

図書館の入館者数及び貸出数の推移



資料：刈谷市

自分専用のスマホ等を持った時期



資料：刈谷市児童生徒愛護会実態調査(2021年9月実施)

※端数処理のため、合計が100%にならない

## 施策の内容

### 221 学習機会の充実

- ①時代の潮流を踏まえ、多様化する趣向と学習ニーズを的確に捉えた講座などを企画し、興味や必要に応じた学習の機会を提供します。
- ②大学などの高等教育機関や事業者と連携した専門講座を開催するなど、高度な学習の機会を創出します。
- ③図書館、学校等が連携して子どもや若者の読書活動を推進するとともに、誰もが読書を身近に感じられる仕組みづくりを進めます。

### 222 学習活動の支援

- ①市民が自ら学習した知識をいかして、講師となる機会を充実させます。また、ボランティアグループによる講座の企画支援などを通じて、ネットワーク化を促進します。
- ②グループやサークルによる市民の自主的な活動や地域の公民館活動の活性化を支援し、学習成果の発表の場の充実に努めます。
- ③広報紙やホームページに加え、ポータルアプリや SNS などのあらゆる媒体を積極的に活用し、講座情報や学習施設の情報を効果的に発信します。
- ④多くの学習施設により、充実した活動環境を提供し、市民の学習活動や余暇活動を支援します。また、デジタル化に対応した設備を整えるなど適切な管理改修により、常に安全で快適な施設を維持します。

### 223 青少年の 健全育成

- ①青少年育成の基本となる家庭の役割や家庭教育の重要性について啓発するとともに、家庭、学校、地域が連携し、社会全体で青少年が健やかで自立できる環境づくりを推進します。
- ②青少年が地域の中で、多様な体験や学習機会、交流活動の場を通して、協調性や社会性を育み、健やかな成長ができるよう支援します。
- ③様々な困難を抱える子ども・若者に寄り添い、一人ひとりの状況に応じた支援が行われる体制づくりを推進します。



## 連携・協働の考え方

- より魅力的で充実した生涯学習環境を創出するため、市民や事業者、各種団体などと協働して、生涯学習活動に取り組みます。
- 幅広い地域住民や事業者、各種団体などとともに家庭や学校と連携して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えます。

## 関連する個別計画

- 第3次生涯学習推進計画  
(2015年度～2024年度)

# 2-3 スポーツ

主な関連  
ゴール



## めざす姿



解説  
動画

▶ [する・みる・ささえる](#)

- スポーツに親しむ環境や体制、施設が整っており、性別や年齢、障害の有無、国籍などにかかわらず、誰もが生涯にわたってそれぞれの体力や技術、興味、目的に応じて気軽にスポーツを楽しんでいます。

指標	現状値	目標値（めざす方向） 2032年
成人のスポーツ実施率（週1回以上）	48.1% (2022年)	75.0%
スポーツ施設の利用に満足している人の割合	34.3% (2022年)	45.0%

## 施策の背景

### 📍 現状

健康意識の高まりや、ライフスタイルの多様化に伴い、スポーツ活動を幅広くとらえ、そのかわり方も多様化しています。

各競技や地域の多種多様な団体が、競技スポーツ、レクリエーション、地域での多世代スポーツ活動など、それぞれの目的と特性をいかした活動をしています。

各種体育施設や生涯学習施設など多くのスポーツ施設が利用されている一方で、成人のスポーツ実施率が伸び悩んでいます。

市民のスポーツ活動の活性化と継続化を図る指導者やリーダー、スポーツボランティアに対するニーズが多様化しています。

ホームタウンパートナーチームが13チームあり、トップリーグの試合などが多く開催されています。

### ✍️ 課題

➔ 市民のライフステージやライフサイクル、ニーズに応じて「する・みる・ささえる」スポーツ活動に参加できる環境をつくる必要があります。

➔ 各団体の更なる活動強化や組織力向上などについて、育成や活動の充実が求められています。

➔ 誰もがより快適に気軽にスポーツに取り組める環境を整えることが求められています。

➔ スポーツ活動に気軽に参加し継続できるよう、「ささえる人材」の育成が望まれます。

➔ トップアスリートとふれあう機会の創出や環境整備、スポーツを通じた市の魅力向上や発信などが望まれます。

成人のスポーツ実施率（週1回以上）の推移



資料：市民意識調査



## 施策の内容

231  
スポーツ活動  
プログラムの充実

- ①市民の目的やニーズに応じたプログラムの提供を通して、市民がスポーツ活動に参加できる機会の拡大を図るなど、「する」スポーツの推進に努めます。
- ②「みる」、「ささえる」スポーツの推進により、気軽に参加するきっかけづくりに努めます。
- ③地域での定期的・継続的なスポーツ活動を推進することにより、スポーツに親しむことができる環境づくりを進めます。
- ④全国レベルで活躍する選手や指導者と連携し、また支援することで、競技意欲を高め競争力の向上を図ります。
- ⑤学校生活などでのスポーツ活動の充実を通して、子どもたちが体を動かす機会の充実に努めます。

232  
クラブ・  
団体の育成

- ①総合型地域スポーツクラブの活動充実や運営体制の強化を支援します。
- ②各種団体の自主的・自立的な活動の充実や組織力の強化を支援し、継続的なスポーツ活動の推進を図ります。

233  
施設の整備・  
充実・開放

- ①施設の種類、内容、配置、運営方法、市民ニーズなどを踏まえ、活動しやすい施設の整備・修繕を計画的に進めます。
- ②身近なスポーツ施設を充実させ、活動拠点の充実に努めます。
- ③既存施設の効率的な活用や利用料金の適正化に取り組むとともに、施設管理者との連携により、より円滑な管理・運営に努めます。

234  
ささえる  
人材の育成

- ①指導者やリーダーを育成する研修の実施や活動機会を提供することにより、指導やマネジメントができる多様な人材育成に努めます。
- ②スポーツ推進委員の研修や活動の充実に努め、身近なリーダーを育成します。
- ③競技スポーツや学校体育など様々な立場の指導者ネットワークを構築し、互いに連携することができる環境づくりに努めます。
- ④「ささえる」スポーツの啓発や仕組みづくりの検討を行い、スポーツボランティアの育成と確保に努めます。

235  
スポーツを通じた  
まちづくり

- ①ホームタウンパートナー制度の一層の充実に努めます。
- ②スポーツと観光の融合によるスポーツツーリズムを推進し、交流人口の拡大とまちの活性化を図ります。
- ③アジア競技大会など国際スポーツ大会の誘致などにより、市の魅力発信や地域の活性化に努めます。

## 連携・協働の考え方

●豊かなスポーツライフの実現に向け、行政だけでなく、市民や事業者、スポーツ・レクリエーション団体、学校など各主体がそれぞれの役割を把握しながらスポーツに積極的にかかわり、多くの市民がスポーツに親しむことができる環境づくりに努めます。

## 関連する個別計画

●第3次刈谷市スポーツマスタープラン  
(2019年度～2028年度)

# 2-4 歴史・文化・観光交流

主な関連  
ゴール



## めざす姿

- 年齢を問わず誰もが文化芸術に親しむことで、生きがいを持ち心豊かな生活を送っています。
- 歴史や文化財が本市の魅力として広く周知され、多くの市民が本市に誇りや愛着を感じています。
- 観光の取組を通じて、市の認知度や地域ブランドが向上し、地域のにぎわいが生まれています。

指 標	現状値	目標値(めざす方向) 2032年
日頃から文化や芸術に親しむ機会がある市民の割合	39.0% (2022年)	51.0%
誇りや愛着を感じている市民の割合	64.0% (2022年)	79.5%
刈谷の魅力を友人などに勧めたいと思う市民の割合	47.3% (2022年)	60.0%

## 施策の背景

### 現 状

文化施設の利用率低下や利用者が固定化しているなど日頃から文化芸術に親しんでいる市民の割合が減少傾向にあります。

文化芸術に関する市民のニーズが多様化しています。

文化芸術団体等に属する会員の高齢化が進んでいるとともに会員数が減少しています。

歴史博物館が開館し、歴史文化の情報を発信する拠点となっています。

文化芸術基本法の施行や文化財保護法の改正により、文化芸術や文化財を「振興」・「保存」だけでなく「活用」することが位置づけられました。

地域資源をいかした観光振興に関する市民の満足度が低いです。

### 課 題

→ 気軽に文化芸術にふれる機会の創出や、作家・アーティストとの交流を通じた文化芸術の活性化が望まれます。

→ 多様化するニーズを捉え、ニーズに応じた事業を展開するとともに、専門性の高いニーズに対応できる運営体制が求められています。

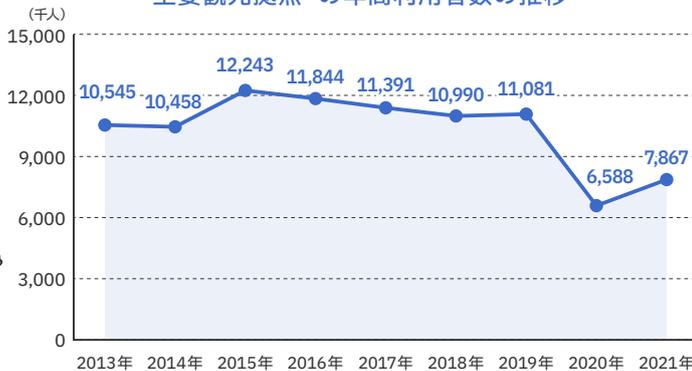
→ 団体の活動を支援するとともに、幅広い年齢層に対して文化芸術等に関する情報を提供していくことが求められています。

→ 調査研究の充実と、魅力的な企画展やイベントの開催を通じて、歴史文化に関する市民意識を醸成することが求められています。

→ 文化芸術や文化財を観光やまちづくりなどの他の分野に活用することにより、地域の活性化や市民のまちに対する誇りや愛着の醸成につながることを望まれます。

→ 既存の地域資源などの魅力向上と新たな発想による取組が求められています。

主要観光拠点※の年間利用者数の推移



▶ 主要観光拠点の紹介 [🔗](#)

資料：刈谷市  
※刈谷ハイウェイオアシスや万燈祭を始めとした  
主要な観光施設やイベント



## 施策の内容

### 241 文化芸術による 魅力づくり

- ①新しい情報ツールを活用した情報発信や利用者参加型イベントの開催などを通じて、幅広い年齢層が気軽に文化芸術に触れるきっかけを提供し、文化芸術への興味関心を高めます。
- ②多様化する文化芸術のニーズに対応し、市民のライフスタイルに合った文化芸術活動の機会の提供に努めます。
- ③文化芸術団体への支援や教育機関との連携を通じて、文化活動の振興に努めます。

### 242 文化財の 保護・伝承

- ①歴史博物館を中心に文化財の保存・管理を行うとともに、その調査研究を進めます。
- ②天然記念物を保護・管理するとともに、地域を中心とした保護活動の推進を図ります。
- ③民俗文化財保存団体の活動や担い手となる人材の育成を支援し、伝統文化の継承に努めます。
- ④刈谷城跡においては、発掘調査の成果をもとに調査研究を進め、歴史的・学術的価値の向上を図るとともに、その保存・継承に努めます。

### 243 歴史文化の 普及・啓発・活用

- ①多くの市民に郷土の歴史や文化に親しんでもらうため、企画展などを通じて、歴史文化の普及・啓発活動を展開します。
- ②歴史博物館や郷土資料館において、子どもを中心に市民が気軽に歴史文化に触れることのできる機会を創出します。
- ③市内外において、PRブースを出展するなど、歴史文化の魅力を広く発信していきます。

### 244 観光交流の推進

- ①地域資源を磨き上げ、組み合わせることで、来訪客と市民のニーズに応える観光の取組を推進します。
- ②ターゲットに応じた情報提供や魅力発信の強化、市の認知度向上に努めます。
- ③幅広く地域資源を有効活用した誘客促進を図り、広域連携などにより交流人口の拡大に努めます。



## 連携・協働の考え方

- 地域団体や文化芸術団体を支援するとともに、連携して文化芸術や歴史などの魅力を発信することで、多くの市民が文化芸術などに触れ、親しむ機会の創出に努めるとともに、文化芸術の担い手となる後継者の育成を図ります。
- 観光交流を推進するにあたり、市民、事業者、各種団体と連携、協働し、推進体制の充実を図ります。

## 関連する個別計画

- 第2次刈谷市文化振興基本計画（2018年度～2027年度）
- 小堤西池カキツバタ群落保存活用計画（2020年度～）
- 第2次刈谷市観光推進基本計画（2011年度～2023年度）